

妊婦のインフルエンザワクチン接種について

妊婦がインフルエンザに罹患すると重症化しやすく、死亡率は妊娠していない人の10倍になると報告されています。また、妊婦へのワクチン接種で6ヶ月以内の赤ちゃんへの感染も減らすと報告されています。

現在の流行を考えると1日でも早くワクチンを接種することが望ましいと思われ
れます。

新型インフルエンザワクチンにはチメロサル等の保存剤が使用されていない製剤も用意される計画です（プレフィルドシリンジ製剤、あらかじめ注射器に注射液が充てんされている）。妊婦で希望する方はこのワクチン接種を受けることができる計画です。

また、国の計画によれば、いずれ全国の妊婦分のワクチンは確保される予定です。

しかし、インフルエンザの流行に追いつかず、保存剤が使用されていない製剤の入荷時期は未定です（11月16日以降の計画）。

しかも、何本入荷するかわかりません。

早めにワクチンを接種することが望ましいので、今回は、一般用（保存剤入り）
が72人分用意されました。

参考のために

インフルエンザワクチンは不活化ワクチンですので妊婦にとって安全かつ有効であると考えられています。日本で使用されるインフルエンザワクチンは、生ワクチンではないので重篤な副作用は起こらないと考えられ、一般的に妊娠中のすべての時期において安全であるとされています。

妊娠初期に従来のインフルエンザワクチンを接種しても奇形のリスクがないという研究結果もあります。

平成21年11月4日

岩手県立大船渡病院 産婦人科外来